



# 2019年12月期 第2四半期 決算説明会

代表取締役 社長執行役員 富安 司郎

2019年8月9日



1. 2019年12月期 第2四半期業績の概要
2. 国内外市場の動向
3. 2019年12月期 業績予想
4. トピックス

# 1. 2019年12月期 第2四半期 業績の概要



# 連結業績の概要

ISEKI

(単位: 億円、%)

	18/12期		19/12期		前年 同期比	予想比 <sup>※</sup>
	2Q実績	比率	2Q実績	比率		
売上高	822	100.0	775	100.0	△47	△43
(国内)	639	77.7	599	77.3	△40	△49
(海外)	183	22.3	176	22.7	△7	+6
営業利益	22	2.7	16	2.1	△6	△3
経常利益	18	2.2	8	1.1	△10	△8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	16	2.0	7	0.9	△9	△7
為替 レート (円)	米ドル	108.8	110.7		+1.9	+2.7
	ユーロ	133.1	125.7		△7.4	+0.7

※予想比: 2019年2月13日公表予想との対比

# 国内売上高



前年同期比

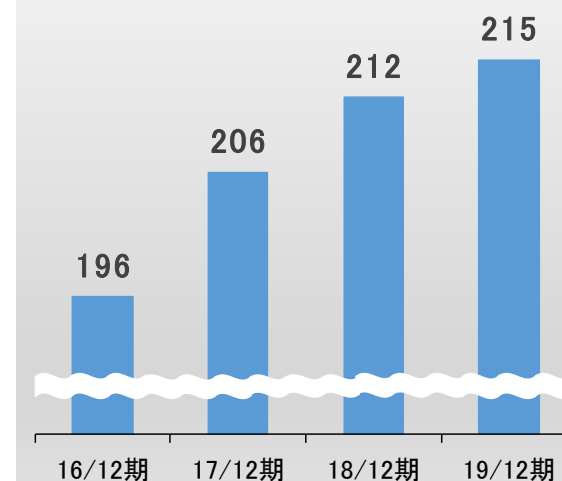
△40億円

作業機、部品、修理収入は引続き堅調も、農機製品で主にトラクタが減少  
 施設工事は前年にあった大型工事売上がなくなったことにより減収

(単位:億円)

		18/12期 2Q実績	19/12期 2Q実績	前年同期比		予想比※	
					備考		
農機 製品	整地機	164	151	△13	トラクタ: △10	△28	
	栽培機	64	61	△3	田植機: △3	△6	
	収穫調製機	55	54	△1	コンバイン: ±0	△1	
	小計	283	266	△17		△35	
	農機 関連	作業機	118	120	+2		△4
		部品	68	69	+1		△2
		修理収入	26	26	±0		△2
		小計	212	215	+3		△8
	計	495	481	△14		△43	
	施設工事	33	13	△20		△2	
その他農業関連	111	105	△6		△4		
合計	639	599	△40		△49		

【作業機、部品、修理収入推移】  
 (1~6月ベース、億円)



※予想比:2019年2月13日公表予想との対比

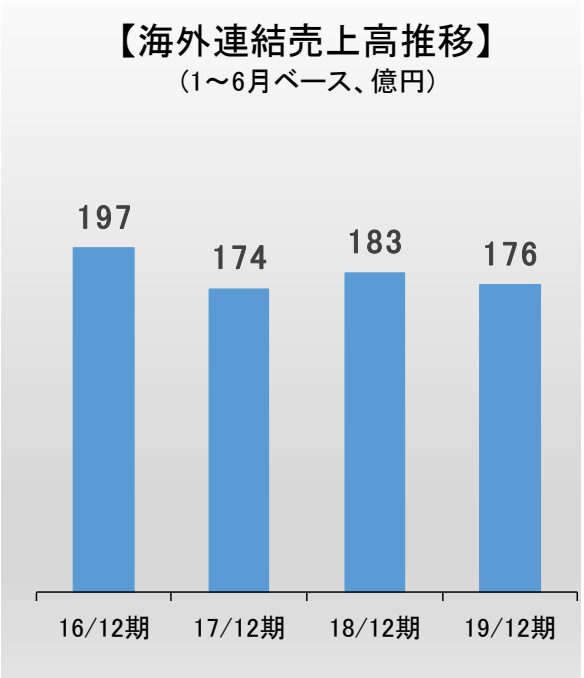
# 海外売上高

前年同期比  
△7億円

北米堅調に加え東アジア向け出荷が増加するも、  
中国・アセアンの現地在庫調整により、連結売上高全体では減収

(単位:億円)

	18/12期 2Q実績	19/12期 2Q実績	前年同期比		予想比 <sup>※2</sup>
				備考	
北米	56	64	+8	トラクタ: +8	+4
欧州	60	59	△1	トラクタ: +1、芝刈機: △2	+5
中国	9	1	△8	現地在庫調整 田植機: △8	±0
アセアン	20	9	△11	現地在庫調整 トラクタ: △11	△3
その他	11	21	+10	韓国: +7(コンバイン: +5)	±0
製品計	156	154	△2		+6
部品その他	27	22	△5		±0
連結売上高合計	183	176	△7		+6
※1グローバル海外売上高合計	212	192	△20		△43
グローバル海外売上高比率	24.9%	24.3%	△0.6%		△2.3%



※1 グローバル海外売上高: 持分法適用会社を含む海外売上高  
 ※2 予想比: 2019年2月13日公表予想との対比

# 営業利益

前年同期比  
△6億円

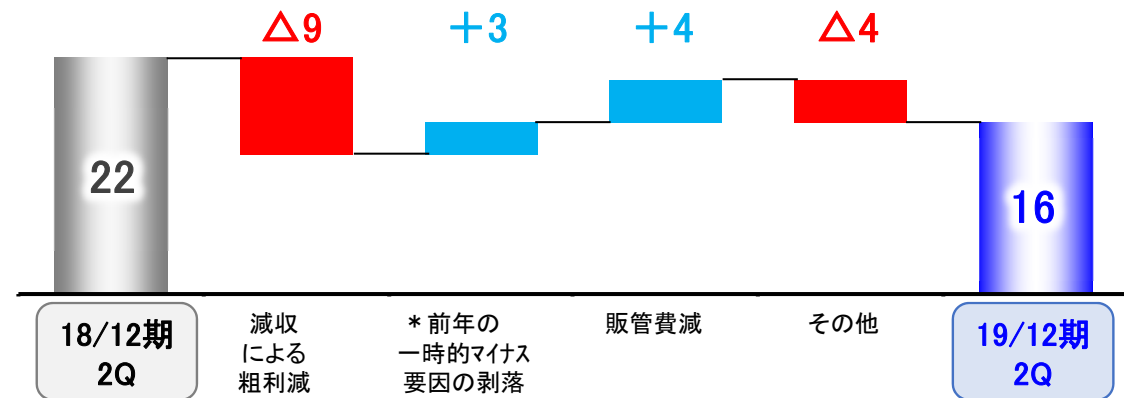
減収による粗利益減少を、前年の一時的マイナス要因の剥落による利益率改善や販管費の削減により一部吸収するも減益

(単位: 億円、%)

	18/12期 2Q実績	19/12期 2Q実績	前年 同期比	予想比 <sup>※</sup>
売上高	822	775	△47	△43
売上総利益	235	225	△10	△12
粗利率	28.6%	29.1%	+0.5%	+0.1%
販管費	213	209	△4	△9
人件費	124	122	△2	△5
その他経費	89	87	△2	△4
営業利益	22	16	△6	△3

※予想比: 2019年2月13日公表予想との対比

【営業利益増減内訳(前年同期比)】



\*前年一時的要因: 子会社合併に伴う退職給付原則適用等の一時的負担の減 +2  
施設不採算工事による採算悪化の減 +1

【為替影響(億円)】

売上	原価	販管費	営業利益
△2	△2	-	±0

\*原価、販管費のマイナスは利益プラス表示

# 経常利益、四半期純利益

経常利益  
前年同期比  
△10億円

持分法投資損失の計上等により減益

(単位:億円)

	18/12期 2Q実績	19/12期 2Q実績	前年 同期比	予想比 <sup>※</sup>
営業利益	22	16	△6	△3
金融収支	△4	△4	±0	±0
その他営業外損益	0	△4	△4	△5
経常利益	18	8	△10	△8
特別利益	1	1	±0	+1
特別損失	△1	△1	±0	±0
税前利益	18	8	△10	△7
税、税調整額	△2	△1	+1	±0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	16	7	△9	△7

【営業外損益増減要因(前年同期比)】

・持分法投資損益 △4億円

(単位:億円)

18/12期	19/12期	増減
△3	△7	△4

※予想比:2019年2月13日公表予想との対比



# バランスシート(連結)

ISEKI

前年  
同期末比

売上高減少により売上債権は減少、棚卸資産は増加  
設備投資により、リース債務(有利子負債)増加

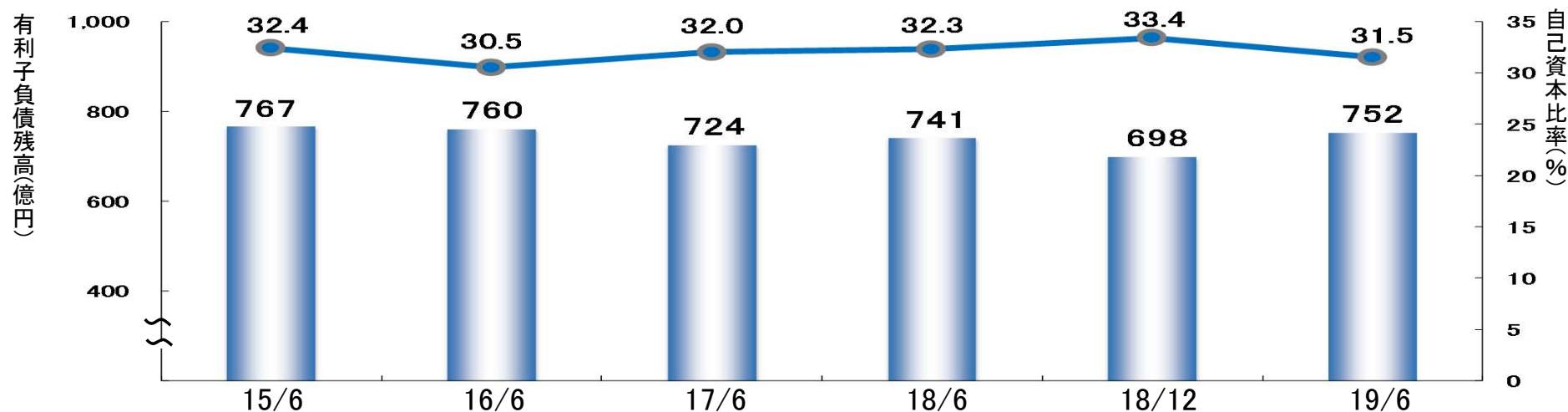
(単位:億円)

	18/6月末	19/6月末	増減		18/6月末	19/6月末	増減
現金	108	83	△25	仕入債務	464	458	△6
売上債権	372	348	△24	有利子負債	741	752	+11
棚卸資産	534	548	+14	(内借入金)	(678)	(678)	(±0)
その他流動資産	25	54	+29	(内リース債務)	(63)	(74)	(+11)
(内短期貸付金)	(0)	(28)	(+28)	その他負債	225	229	+4
流動資産計	1,039	1,033	△6	負債計	1,430	1,439	+9
有形固定資産	962	974	+12	純資産	709	686	△23
無形固定資産	10	12	+2	(利益剰余金)	(175)	(170)	(△5)
投資その他資産	128	106	△22	(有価証券評価差額金)	(10)	(2)	(△8)
(内投資有価証券、出資金)	(83)	(61)	(△22)	(為替換算調整勘定)	(9)	(7)	(△2)
固定資産計	1,100	1,092	△8	負債・純資産計	2,139	2,125	△14
資産合計	2,139	2,125	△14				

# 自己資本比率・有利子負債

有利子負債  
D/Eレシオ

6月(中間)は春商品回収前影響もあり借入金水準は高め、リース債務の増加による有利子負債増加もあり、D/Eレシオは1.10倍



借入金・社債	676	675	648	678	635	678
リース債務	91	85	76	63	63	74
有利子負債 計	767	760	724	741	698	752
D/Eレシオ	1.09倍	1.16倍	1.05倍	1.04倍	1.01倍	1.10倍

※D/Eレシオ=有利子負債/純資産 ※リース債務を含む

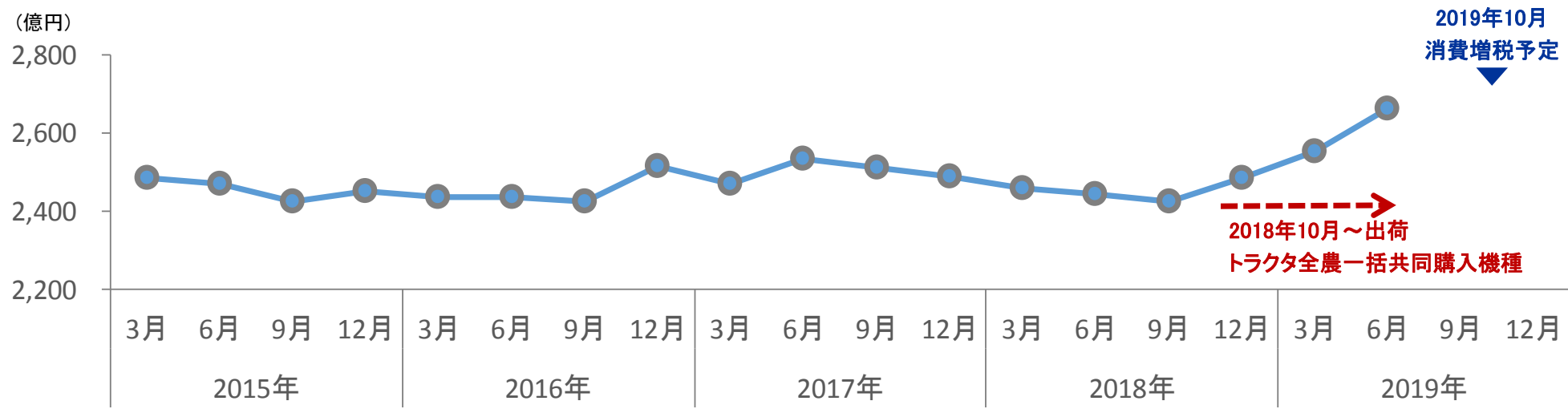
## 2. 国内外市場の動向



# 国内農機市場の動向

**国内農機需要** ▶▶▶ **トラクタ(全農一括共同購入機種)の出荷や消費増税に向けての先行出荷が生じているものの基本的には横ばい**

■ 農機需要〔業界出荷〕(主要9機種・移動年計)



※主要9機種:トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、糞摺機、バインダー、ハーベスター、トリートメント  
 出所:日農工出荷統計より当社推計

# 国内農機出荷と当社状況

ISEKI

国内  
農機需要

当社実売は微減

主要9機種 前年伸長率(金額、移動年計) ※当社推計

(単位:%)

		2017/6月	2018/6月	2019/6月
業 界	(出荷金額)	104%	96%	109%
当 社	(実売金額)	94%	100%	98%

※主要9機種:トラクター、コンバイン、田植機、耕耘機、乾燥機、糞摺機、バインダー、ハーベスター、トリートメント

# 国内 当社の実売状況

ISEKI

国内  
当社実売

6月までは前年を下回るも、足許では回復基調  
消費増税による駆け込み需要の動きもみられる

## 国内販売会社 農機製品実売状況(前年伸長率)

(単位:%)

	1-6月	7月
実売金額	97%	110%

スマート  
農機

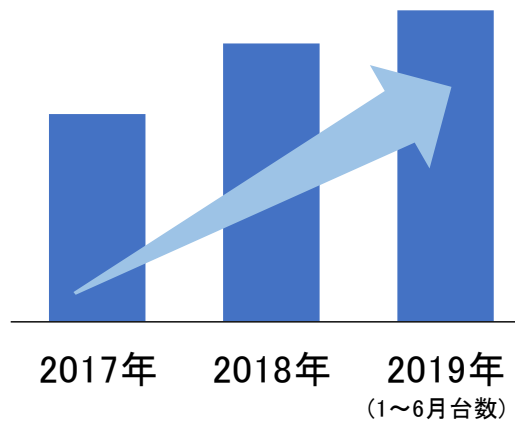
大型クラスを中心に各種スマート農機好調

## 有人監視型 ロボットトラクタ



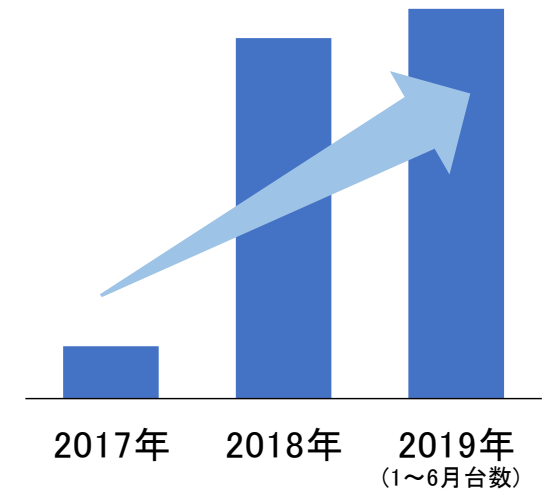
2019年モニター販売(10台)  
展示会・実演会で高評価

## 自動操舵(トラクタオプション)



北海道を中心に自動操舵需要増加

## 直進アシスト田植機



着実に台数増加  
特に大型クラスが好調

# 国内 大型商品販売本格化

ISEKI

*T. Japan W*



約1,200～1,480万円

*T. Japan V*



約800～1,210万円

*T. Japan X*



約580～960万円

*Monster Japan*



約1,660～2,000万円

*Ultra Japan*



約1,380～1,710万円

*All Japan*

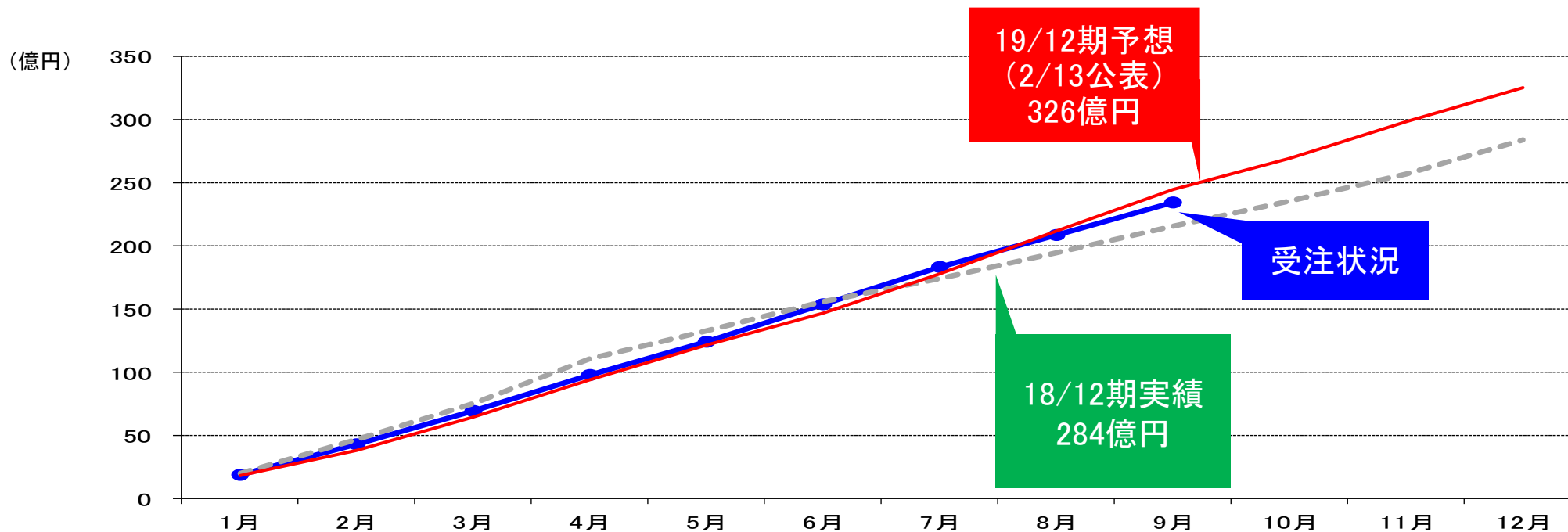


# 海外製品売上の直近状況

ISEKI

海外  
受注状況

9月までの受注は前年を上回るも、計画比若干の未達  
北米の継続伸長、欧州他地域への新商品投入効果を見込む



※製品ベース。「部品 その他」は含まず

※受注状況は1~6月までは実績、7~9月は受注見通し

# 海外市場の動向(北米)

北米

AGCO社実売はコンパクトで市場を上回って推移  
 当社受注もAGCO社の好調な実売を受け、コンパクトを中心に堅調

## 1. 市場の動向

(単位:千台、%)

区分(PTO馬力)	40HP以下 (コンパクト)	40~100HP (ユーティリティ)	100HP以上
2018年1-6月	92	32	11
2019年1-6月	97	31	10
増減率	106%	97%	97%

(出所:AEM統計)

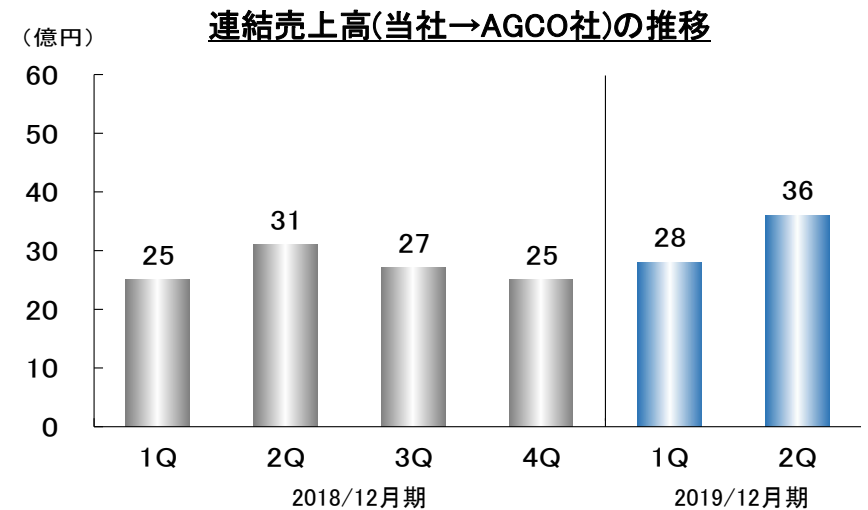
## 2. AGCO社(OEM先)の状況

実売台数(19/1-6月)

- コンパクト : 前年同期比 111%
- ユーティリティ : 前年同期比 97%

## 3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(19/1-9月) : 前年同期比 118%



# 海外市場の動向(欧州)



欧州

現地実売は前年並み  
当社受注は下期モデルチェンジを控え前年同期比減少も計画通り

## 1. 市場の動向

<景観整備市場>

- ・プレシーズンの販売は好調に推移
- ・4月低温、6月下旬は高温・乾燥と天候不順

## 2. 現地の実売状況

➤ 実売(19/1-5月)

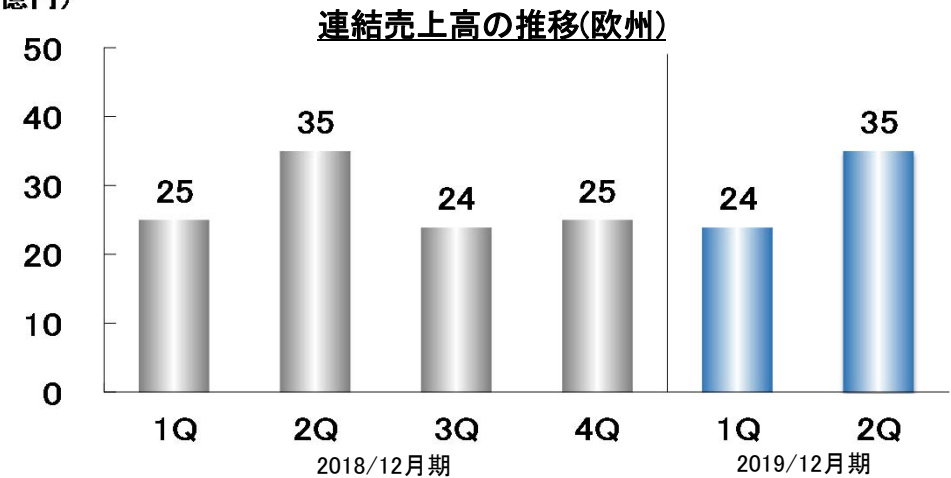
- ・現地販売代理店 : 前年同期比 100%  
(台数ベース)

## 3. 当社の売上・受注状況

出荷・受注(19/1-9月) : 前年同期比 95%  
: 計画比 99%

- ・モデルチェンジ(トラクタ)を控えた出荷抑制が影響するも、新商品投入により下期挽回見込み

(億円)



タイ

一部農作物価格は下落傾向  
干ばつ影響懸念もあり、購買力の本格的な回復には時間を要す

## 1. 市場の動向

- ・キャッサバなど一部農作物価格は下落傾向
- ・干ばつ（過去10年で最低水準の雨量）影響による被害拡大の可能性

## 2. 現地販売会社〔IST Farm Machinery〕の状況

【三菱商事80%、当社20%出資】

現地実売台数

（アセアン戦略トラクタ、19/1-6月）：前年同期比 91%

## 3. 当社の売上・受注状況

- 出荷・受注(19/1-9月)：在庫調整により大幅減
- ・当社はIST社の仕入抑制による大幅減も、流通在庫の消化は進む



# 海外市場の動向(アセアン周辺諸国)

ISEKI

アセアン  
周辺諸国

インドネシアは、下期の入札ボリュームが不確定  
パートナーとの連携により、その他地域での販売拡大を図る

## 1. 市場の動向

<インドネシア>

- ・2015年から続く政府主導の機械化推進(政府入札)
- ・4月の大統領選挙で政権継続も、具体的な農業政策が  
決まっておらず、下期の入札ボリュームは不確定

<ミャンマー>

- ・農業の機械化が加速しつつある

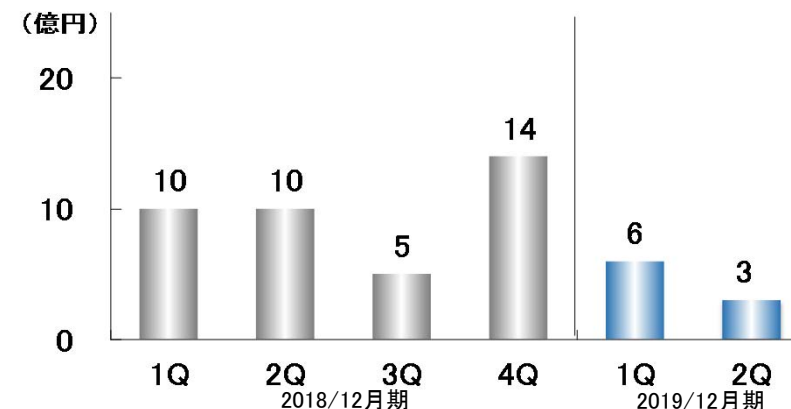
## 2. 当社の状況

- インドネシア: 上期入札は例年並みの受注を獲得
- ミャンマー: IST社を通じ販売拡大を目指す  
・9月までの受注は前年を上回り推移

## 3. ISEKIタイランドの取り組み

販売代理店の営業・サービス支援を強化  
今後のマーケット拡大を想定し、ISEKIタイランドを  
ベースとした補修部品供給体制を強化

連結売上高の推移(アセアン全体)



# PT.井関インドネシア(生産子会社)

ISEKI

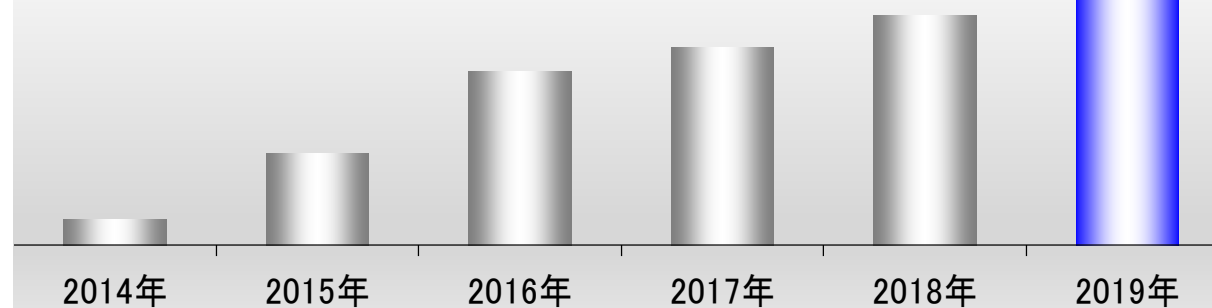
PT.井関  
インドネシア

1～6月の生産台数は計画通り  
海外で稼ぐためのベース基地として収益体質強化を一層図る

(単位:台、億円)

	2014年 実績	2015年 実績	2016年 実績	2017年 実績	2018年 実績	2019年 計画	2019年 1-6月
生産台数	1,100	3,900	7,300	8,400	9,700	12,000	5,800
営業利益	△3	△4	△3	3	1	3	0.5

《生産台数推移》



# 海外市場の動向(中国)

中国 ▶▶▶ 政府米麦買入れ価格は低水準で推移しており、市場はまだ回復果たせず

## 1. 中央政府補助金

(単位:億元)

2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
215	217.5	238	238	237	186	186	180

## 2. 2019年1~5月農機業界の動向(前期比、台数)

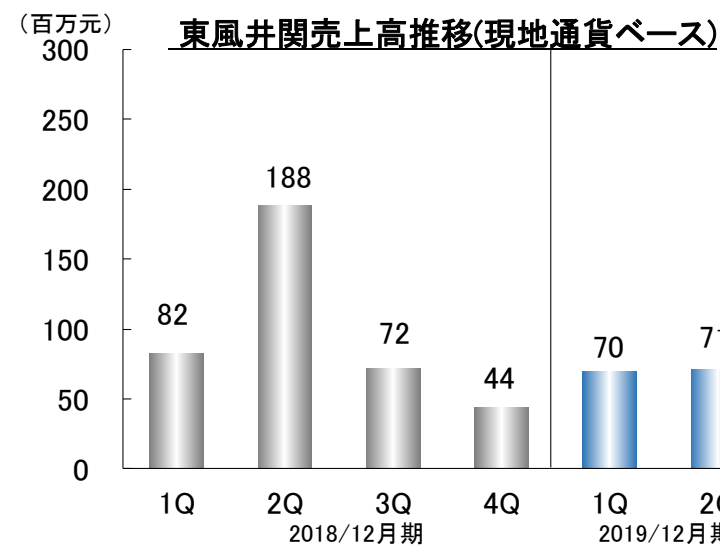
(単位:%)

	業界※
田植機(乗用)	△13%
コンバイン(汎用、自脱)	△10%
トラクタ(大中型)	+4%

※(出所)中国農業機械工業協会

## 3. 東風井関の状況

➤ 中国国内販売は、田植機が大幅減



東アジア

韓国:高性能機マーケットにトラクタ、コンバインを投入

## 1. 市場の動向

<韓国>

韓国政府主導による転作奨励や、農地の集約化による農機の大型化、効率化が進展  
農家数減少傾向により、高性能機マーケットが主流に  
輸出管理強化に関する影響懸念。今後の動きに注視を要す



トラクタ  
TJシリーズ



コンバイン  
HJシリーズ

## 2. 当社の売上状況

韓国No1の農機メーカー「東洋物産グループ」の販路で、当社ブランドのフラッグシップ機 トラクタ「TJシリーズ」、コンバイン「HJシリーズ」を投入

・売上実績(1-6月)

コンバイン : 計画比107%

田植機 : 計画比101%、前年比112%

トラクタ : 7月以降出荷開始

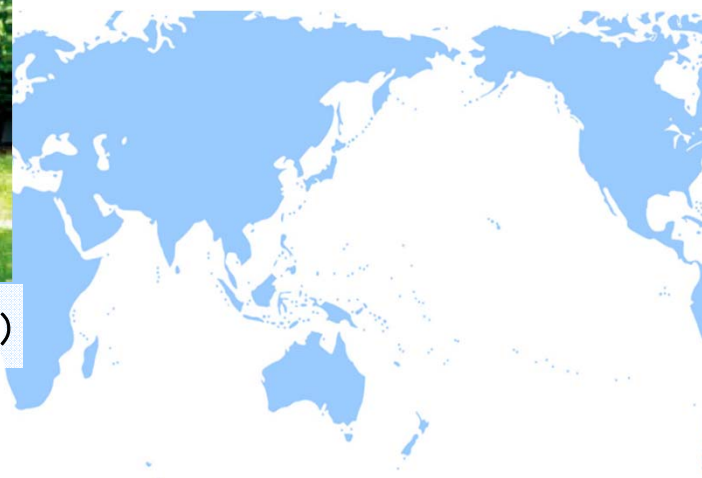


# 海外市場の動向（商品展開）

ISEKI



欧州：乗用芝刈機（2018年販売開始）



北米：小型トラクタ（2019年2月販売開始）

インド：乗用田植機 試験販売



中国：先端技術搭載田植機 販売



中南米、アジア地域への試験販売



### 3. 2019年12月期 業績予想



# 2019年12月期 連結業績予想

業績  
予想

当初予想から修正なし

(単位:億円)

	18/12期 実績	19/12期 予想※	増減 前期比
売上高	1,560	1,640	+80
(国内)	1,228	1,267	+39
(海外)	332	373	+41
営業利益	32	40	+8
経常利益	26	26	±0
親会社株主に帰属する 当期純利益	11	16	+5
為替 レート(円)			
米ドル	110.2	108.0	△2.2
ユーロ	130.9	125.0	△5.9

※予想:2019年2月13日公表予想

【国内】足許では、国内において消費増税による駆け込み需要の動きも見られ、国内の大型農機を中心として下期挽回を図る

【海外】北米好調継続、欧州他地域での新商品投入による増収を見込む

【収益】業務効率化による経費削減に継続して取り組み、粗利率改善、販管費削減を図る

・為替感応度(営業利益、通期ベース) (単位:百万円)

	米ドル	ユーロ
19/12期	7	15

## 4. トピックス



# エンジン生産ラインの更新 〔井関松山製造所〕

ISEKI

## <目的>

- ▶ 排ガス規制対応エンジンの内製化
- ▶ 内製化による品質・収益性向上
- ▶ 生産効率化

## <生産台数見込み>



10月 欧州向けStage V ※2 対応エンジンより生産開始

※1 更新予定時期:1期 2018年~2019年 2期:2020年

※2 欧州Stage V: 欧州ディーゼルエンジン第5次排出ガス規制



## ～ご紹介の内容～

- ▶ 井関グループの事業展開
- ▶ 井関グループの価値創造
- ▶ 価値創造を支える取り組み  
など

# 農業食料工学会「開発賞」受賞

ISEKI

## ＜受賞内容＞

### 開発賞 ISEKIアグリサポートと農業支援サービスの連携

スマート農業を発展させていくために、当社の農業機械から情報を収集する「ISEKIアグリサポート」のデータを他社の営農支援サービスや農業データ連携基盤と連携させることにより、農家の方がデータを有効に活用できる環境を提供する取り組みです。



# 将来の見通しに関する記述についての注意

ISEKI

- ・本資料は、情報提供を目的として作成しており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、潜在的リスクや不確実性が含まれており、経済情勢や市場動向の変化等により実際の結果と必ずしも一致するものではありません。
- ・ご利用に際しては、ご自身の判断でお願い致します。

本資料に掲載している業績予想や目標数値に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。



安心を、未来へつなぐ食料自給率1%アップ運動  
**FOOD ACTION NIPPON**

井関グループは FOOD ACTION NIPPON の推進パートナーです。



未来の  
ために、  
いま選ぼう。

井関グループは、  
環境省による地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を  
促す国民運動である【COOL CHOICE】の取組みに賛同しています。  
「賢い選択」の提案として「エコ商品」など  
環境に配慮した商品の開発普及を推進しています。